

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472612116	事業の開始年月日	令和6年3月1日
		指定年月日	令和6年3月1日
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム相模原下九沢		
所在地	(252-0134) 神奈川県相模原市緑区下九沢1485-26		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和7年2月7日	評価結果 市町村受理日	令和8年4月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症の方やご家族が住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、介護福祉士や看護師、ケアスタッフが一丸となりより良いケアの為に日々努めています。認知症の進行を緩やかに遅らせるための独自の自立支援プログラム（水分や栄養、運動を中心としたプログラム）を実施し、会話を中心としたコミュニケーションや体操、筋力維持のためのリハビリにも取り組んでおります。また、地域に開かれた施設となるよう、地域交流として近隣の保育園等と交流を勧めしております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年2月24日	評価機関 評価決定日	令和8年4月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

JR横浜線または京王線橋本駅南口からバスで塚場バス停下車、徒歩3～4分の住宅地にあります。白を基調としたパステルカラーで柔らかい印象の室内で、食事は法人の方針により原則手作りで提供しています。

<優れている点>

事業所理念「笑顔」「想い」「つながる」の実践に向けて、職員が同じ方向性で取り組めるよう、毎月のホーム会議と3ヶ月ごとの個別面談で管理者が事業所理念に基づく支援について伝えていきます。理念は開設時に職員で策定しています。ヒヤリハットの逆の視点で、職員の働きかけや援助で利用者の行動や発言が前向きに変化した温かい場面を「ニヤリホット」として記録し、運営推進会議の中でも報告し、職員の働きかけや援助で利用者の行動や発言が前向きに変化していく様子を伝えていきます。利用者ケアは常に利用者本位であることを徹底し、職員の都合にならないよう努めています。日々傾聴に努めるほか、利用者同士の会話からも本人の思いや意向を把握するよう努めています。

<工夫点>

ユニットによって利用者ケアが異なるため、ユニット担当は固定にせず、経験を生かすスキルアップなどのほか、全利用者に関わるよう半年あるいは1年で配置換えをしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	愛の家グループホーム相模原下九沢
ユニット名	あじさい

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	①法人としての介護理念があり毎朝朝礼にて読み上げている また、各ホームの理念も独自に作成している ②入社時研修の際に説明・ご家族様がわかるようにフロア内掲示 ③毎朝朝礼にて読み上げている・入社時や定期的な研修で意味について説明 ④「快適」で「穏やか」な生活を常に支援します・様々な機会を通じて地域の人々との触れ合いを大切にします・「心」を込めた親切なサービスに努めその姿勢を磨き続けます	朝礼時に法人介護理念を読み上げています。開設時の職員で決めた事業所理念は、当時リーダーだった現管理者も関わっています。ともに「笑顔」「想い」「つながる」ことへの理解を深め、職員が同じ方向性を持って実践につなげていくために、毎月のホーム会議で管理者が事業所理念に基づいた支援について話をしているほか、3ヶ月ごとの個別面談時にも職員一人ひとりに話をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	①大沢自治会に加入 ②コロナ禍のため直接的な交流は実施できていないが、大沢包括とともに認知症カフェ定期開催の計画を打ち合わせ中 ③コロナ禍の為直接的な交流は中止にしている ④夏祭りの際にご家族様等が浴衣の貸出と着付けのボランティア支援をしてくださった	昨年5月から「愛の家通信」を自治会回覧板で回してもらいようになり、事業所の取組を発信しています。地域包括支援センターとは認知症カフェの定期開催について計画を立てています。民生委員の協力を得て、近隣の保育園児との交流も行っています。夏祭り時には家族ボランティアの浴衣の貸し出し、着付けの協力を得るなど、地域の人々と連携しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議にて認知症重度化した方への支援方法などを説明、困りごとがあればいつでも相談いただきたいこと伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	①1-2ユニットのご家族様及び知見を有する方として特養の統括介護支援専門員、包括支援センターセンター長が参加。 ②実績報告及びご家族様からの意見を頂き、牛丼を食べる会などを開催 地域交流促進として保育園との交流会意見が出ており、民生委員の尽力にて毎月交流会を行っている	本人、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員などが出席しています。事業所の行事・活動報告、事故・ヒヤリハット報告を行い、事業所の取組を伝えています。実施したイベントの外食ドライブレクリエーションについての意見も得て、次回のイベントにつなげています。地域の貸し切りができるレストラン情報を得て、外出支援につなげています。職員の働きかけや援助で利用者の行動が前向きに変化していく「ニヤリホット」についても報告しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	相模原市主催の研修などについては、スタッフへ回覧し、参加し交流など促進している。	運営推進会議に区の職員の出席はありませんが、議事録を郵送し、事業所の現状を伝えています。生活支援課とも連携を図る体制があります。相模原市主催の研修に参加をしたり、「世話好きの会」の集まりで交流機会を持ったりしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	法定研修や入社時研修にて、資料配布し職員全体の理解習熟度確認。不適切ケアチェックシートを用いて現場スタッフ同士で相互に不適切な言動が無いか確認し合っている。 チェックシートもとに定期的に身体拘束廃止委員会実施している。	職員3名で構成する身体拘束廃止委員会を設置しています。議事録は全職員が閲覧・確認できる仕組みを整えています。管理者は講師として、ホームの実情に即した研修をホーム会議あるいは、ユニット会議で実施しています。不適切ケアチェックを2~3ヶ月ごとに実施し、結果を集計のうえ、委員会や研修で気づきを共有しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	①不適切ケアについてチェックシート用いて確認し委員会実施 ②日々管理者が現場ラウンドし、職員の言動や表情、家庭環境などアセスメント実施し必要時有給取得させるなどにて対応 ③研修にて通報義務について都度説明	職員3名を委員とする虐待防止委員会を設置し、チェックシートを用いて不適切ケアの確認と検討を行っています。議事録は全職員が閲覧・確認できる仕組みとしています。管理者は日常的にフロアを巡回し職員の状況を把握し、必要に応じて対応しています。研修では通報義務や事例を踏まえた注意喚起を行っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者様の中でご家族様による経済的虐待につながる恐れある方は包括支援センターと共同で成年後見制度活用するよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	都度契約の際に読み上げつつ、不明点を確認し、契約終了後でも疑問点などあれば遠慮なくお申し付けください。と伝え、相互の理解納得をえている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の際に管理者出勤時は必ずご家族様からの意見など何うようにお声がけしている。 ・誕生日当日に生もの(寿司や刺身)がどうしても食べたいという本人の意見有、ご家族様に伝達し対応して頂くなど	運営推進会議や面会、玄関の意見箱などで意見を聞く仕組みを構築しています。家族からは利用者個人の生活に関する要望を丁寧に聞き取っています。運営推進会議では食材費の値上げに対し、物価高騰の背景を丁寧に説明することで、法人の方針への合意を得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	①毎月のホーム会議にて業務フローの内容変更など現場の声を確認 ②年度内に4回ほど業務フロー改定 散歩の時間変更・職員の休憩時間帯変更など働きやすい職場づくりに努めている	サービス品質を維持するため、管理者が毎日ユニットを巡回し現場の声を収集しています。職員の改善案を反映し、年4回程度業務フローを改訂しています。ケアに関する意見は職員都合にならないことを徹底し、利用者の思い大切にしています。職員の意見は否定せず、まず実践し、利用者の様子を確認しながら進めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社内規定のキャリアパス制度実施 入社時に就業規則配布 離職防止の為に面談実施 ②入社時に15の約束という書類用いてハラスメント防止文言に署名 ③面談や日々のかかわりの中で状況に応じて有給取得やシフト調整など ④紙媒体の介護記録ではなく電子記録活用 情報の全体共有等実施	管理者は3ヶ月ごとに職員面談を行い、法人規定のキャリアパス制度に則り評価しています。職員の休憩時間を30分ずつの分割から60分の連続取得へと変更し、十分な休息を確保しています。休憩時間内の外出も可能とし、職員が心身をリフレッシュできる環境を構築しています。個別の希望に応じた柔軟な働き方を推進しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	①職員を経験年数別や、技術面で階層分けし担当ユニット定期で配置換え OJT担当固定化を行い、助言する人材の確保に努めています（メンター）	職員のスキル向上と全入居者との関わりを目的として、半年から1年程度のサイクルでユニットの配置換えを行っています。資格取得に対しては法人から費用補助を行い、専門性の向上を奨励しています。新人教育では正職員がOJT担当者となり、実務の指導や助言を通じて、新しい職員が円滑に業務へ習熟できるよう支援しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	毎月第4金曜日にて、相模原市内の介護職員や福祉用具会社等が集う会合に参加しネットワークづくりや勉強会等に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時や入居前アセスメントにて生活歴やどのように生活を送りたいかを聞き取りアセスメントシート作成し共有		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	上記同様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居初日～1週間程度記録を詳細に記入し、必要時外部のサービス利用ができるよう支援している（訪問マッサージなど）		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家庭的な雰囲気を重要視し、「できること」を実際に行っていただくよう支援している。 例：調理・食事の盛り付け・毎朝の掃除		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	認知症ゆえに発生する課題や問題行動に関してご家族様へ報告し、可能な限り面会に来ていただき、家族との絆をより強められるよう支援している		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様以外の面会者（隣人、職場での同僚）等もご家族様に確認したうえで面会や外食同行などしていただいている	地域との繋がりを継続するため、知人との面会や外出を促しています。家族による帰宅や墓参りなどの外出を柔軟に受け入れ、住み慣れた環境や人との関係維持を支援しています。これまでの習慣を尊重し、絵画や俳句などの趣味活動を継続できる環境を整えています。散歩時に旧知の住民と交流した際の、楽しそうに過ごす利用者の様子などを「ニヤリホット」に記録して、個別ケアの充実に活用しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	良好な関係性か、そうでないかを記録に記載しながら、レクや散歩のグループ分けなどを行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された方々に関しては、医療的ケアが必要になった方が殆どであり、入院先からご逝去された旨の連絡など受けた場合ご家族様へお悔やみの一報を入れたり、お写真を郵送したりしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴を詳細に聞き取りながら訴えを傾聴するようにつとめ、記録に記載し情報を繋いでいく	入居後の生活の中で本人の本当の思いや願いを理解するため、日常的な傾聴に努めています。好みの味や馴染みの喫茶店に関する入居者同士の会話からも、個人の希望や生活史を丁寧に汲み取っています。収集した新しい情報は介護記録へ速やかに記載し、職員間で共有することで、個々の思いに寄り添った一貫したケア体制を構築しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のアセスメントにて共有		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	上記同様		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	施設CMが担当し、意見や思いを発言できる方からは直接、難しい方はご家族様や後見人様と密に連絡を取りながら計画作成を実施	ケア日報の特記事項から入居者の変化を確認し、計画作成担当者がアセスメントを作成しています。入居者本人の「やれることはやりたい」という意向を受け、家事への参加を組み込んだケアプランを作成しています。医師や理学療法士などの専門職による意見を反映し、3ヶ月ごとに内容の見直しを行うことで、現在の状況に合わせた支援を継続しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録にて気づきや工夫店を記入し、職員全体で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	パンの訪問販売や、近隣のスーパーの移動販売支援を依頼。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居系サービスであるため在宅的なサービス導入はしていないが、地域のボランティア団体と交流し認知症マップ作成等行っている		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2箇所往診が入っており、ご本人様ご家族様のご希望に合わせ、なるべく薬の量については減量する・必要に応じての処方を行うなど実施している	入居者全員が協力医療機関2ヶ所から選択し、月2回の訪問診療を受診する体制を整えています。歯科医の毎週の来訪機会を設け、希望者の受診を支援しています。外部看護師による健康観察に加え、看護師資格を持つ管理者の判断のもと、体調変化時には協力医療機関と迅速に連携する体制を構築しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回訪問看護にて体調の変化など把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者発生の際は、基本的に往診医療機関へ入院をしていただいております、できるだけ早期に退院できるように調整している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	①入居契約時に重度化・看取り指針を説明し同意を得ている 看取り研修なども職員に対し定期的実施している	入居契約時に重度化した場合の対応や看取りの指針に基づき、対応可能な範囲を具体的に説明しています。終末期における家族の意向の変化を尊重し、病院への移行を柔軟に支援しているため、現在のところ看取りの実績はありません。看取り介護研修の実施や資料配布を通じ、全職員で知識の習得と共有に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変 事故対応時のフローにのっとり職員に対応できるよう指示出し、教育を行っている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練 毎年2回実施 昼と夜の想定をしたうえで、日中は消防署に来ていただいている	夜間想定を含む防災訓練を行い、火災時の待機場所や水害時の垂直避難の手順を職員間で共有しています。発電機や衛生用品、非常食などを備え、リストを用いて消費期限を管理しています。感染症および自然災害の業務継続計画を策定し、定期的な研修を通じて緊急時における対応力の維持に努めています。	地域と連携した防災体制の構築が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様はお客様であるということを意識した言葉遣いや声掛けを徹底するように教育中	プライバシーに配慮し家族などにWeb掲載の可否確認をして承諾がない人が映り込む場合はモザイクを施しています。運営推進会議議事録には利用者の名前をアルファベット表記に変えるなど個人が特定できないように徹底しています。職員は「プライバシー保護と権利擁護」などの研修で学びを深め人格を尊重した言葉かけに努めています。夜間、居室を施錠する人の習慣にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	レクや行事の日など、ご本人様へ選択肢を提供し（何を食べていただけますか等）、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを尊重しつつ、例えば体操などできる事を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	特に女性の方に関しては、乳液や化粧水など持参して頂いている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けができる方へはお願いし一緒に実施、好きな漬物などを持参して頂いている	法人の管理栄養士が作成した献立を基に、専従職員による手作りを基本としつつ湯煎調理も組み合わせて食事を提供しています。誰もが対応できるよう刻みやトロミ食、肉の代替食などを表にして掲示しています。利用者はお盆拭きなどの役割を担っています。牛丼やちらし寿司の購入、パンの訪問販売の利用、皆でケーキ作りをするなど食事の楽しみを広げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	独自の記録システム導入しており、摂取カロリーや水分を把握しつつ対応できるようつとめている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケア実施時にうがい薬にてうがいなど実施している		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	なるべく日中夜トイレへ誘導の声掛けをし、パットやリハパンに頼らずに排泄できるようつとめている	利用者の排泄パターンを把握し、入居者からの訴えがない場合の定時誘導や、自身のズボンに触るなど排泄のサインを見逃さず随時誘導を行い、トイレでの自立排泄を支援しています。夜間は個人の特性に合わせてポータブルトイレの使用や、吸収力のあるパッドに変えるなど安眠を重視した支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を多めに摂取して頂くよう声掛けしつつ対応。下剤使用する方もいるが、その方のおなかの動きに合わせて、薬剤調整をしている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	午前中、午後がいい方などその方に合わせて対応している	介護度が高くお湯に浸かることが難しい人も入浴できるよう、スライド式の浴槽を備えています。週2回の入浴を基本とし、入浴のたびに湯を取り替え感染症予防に配慮しています。季節感を取り入れた入浴環境を整えるため、ゆず湯や入浴剤を使用しています。入浴に気が向かない人には、時間を変えるほか、「いい湯だな」などの楽しい音楽を脱衣所に流すことで入浴のきっかけを作るなど工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	20時に居室へ戻る方もいれば、21時の消灯までゆっくり過ごす方もおり、その方のペースに合わせた対応をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報についてファイリングし現場フロアへ設置して対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お皿洗いが好きな方や掃除が得意な方などそれぞれ役割を身に付けて生活して頂いている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	朝の散歩支援など日常的な外出支援を行っている。	花見ドライブや「買物・外食どちらかツアー」と銘打って利用者の希望を取り入れ、衣料品などの買い物に出かけています。外出を希望しない人にはホームで気分転換が図れるよう、ベランダでの外気浴などを取り入れています。家族の協力を得て外食や墓参り、自宅への外泊をする人がスムーズに外出できるよう支援しています。限られた人員の中で工夫し、毎日の散歩の定着に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当施設ではお小遣いは廃止しているが定期的な訪問販売など実施しており、施設の現金にて建て替えで対応。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や暑中見舞い等を作成して頂き、ご家族様と連絡が取れるよう支援している。また、電話があった際はなるべく本人様と電話口変わっていたくように支援している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	パステルカラーなど優しい色合いでフロアを統一しつつ、季節感のある環境整備としてレクにて作成した壁飾りを飾ったりなどして対応	共用空間は優しい色合いの壁紙で、広々とした居間に日差しが差し込む落ち着いた環境を整えています。ソファを置いて独りになったり気の合う利用者同士で過ごしたりできるようにしています。利用者が快適に過ごせるよう窓の開閉で換気し、空調で温度管理をしています。玄関には生花を飾るほか、感染症に配慮し来訪者が手を洗えるよう洗面台を設置しています。季節を感じる玄関先の植栽の手入れや雛人形などの季節の飾り付けをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファになじみのかたがたと座ったり、リラックスして過ごして頂くよう支援している		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前にご家族様へ説明し、使い慣れたものを持参するよう支援している。	居室にはエアコン、たんす、照明、ピクチャーレールを備え付け、入居後すぐに生活を始められる環境を整えています。夜間の離床を知らせるマットセンサーを設置するほか、転倒リスクを低減するため滑り止め敷物を使用している人もいます。入居後の不安が軽減するよう、寝具や趣味の編み物、猫のぬいぐるみ、写真、テレビなど馴染みの品や思い出の品の持ち込みを勧めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	部屋の電気の扱いにて混乱する方がいらっしゃったが、壁に説明文掲示して対応などし、自分でできる事の支援を行っている		

事業所名	愛の家グループホーム相模原下九沢
ユニット名	ひばり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	①法人としての介護理念があり毎朝朝礼にて読み上げている また、各ホームの理念も独自に作成している ②入社時研修の際に説明・ご家族様がわかるようにフロア内掲示 ③毎朝朝礼にて読み上げている・入社時や定期的な研修で意味について説明 ④「快適」で「穏やか」な生活を常に支援します・様々な機会を通じて地域の人々との触れ合いを大切にします・「心」を込めた親切なサービスに努めその姿勢を磨き続けます		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	①大沢自治会に加入 ②コロナ禍のため直接的な交流は実施できていないが、大沢包括とともに認知症カフェ定期開催の計画を打ち合わせ中 ③コロナ禍の為直接的な交流は中止にしている ④夏祭りの際にご家族様等が浴衣の貸出と着付けのボランティア支援をしてくださった		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議にて認知症重度化した方への支援方法などを説明、困りごとがあればいつでも相談いただきたいこと伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	①1-2ユニットのご家族様及び知見を有する方として特養の統括介護支援専門員、包括支援センターセンター長が参加。 ②実績報告及びご家族様からの意見を頂き、牛丼を食べる会などを開催 地域交流促進として保育園との交流会意見が出ており、民生委員の尽力にて毎月交流会を行っている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	相模原市主催の研修などについては、スタッフへ回覧し、参加し交流など促進している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	法定研修や入社時研修にて、資料配布し職員全体の理解習熟度確認。不適切ケアチェックシートを用いて現場スタッフ同士で相互に不適切な言動が無いか確認し合っている。チェックシートもとに定期的に身体拘束廃止委員会実施している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	①不適切ケアについてチェックシート用いて確認し委員会実施 ②日々管理者が現場ラウンドし、職員の言動や表情、家庭環境などアセスメント実施し必要時給取得させるなどにて対応 ③研修にて通報義務について都度説明		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者様の中でご家族様による経済的虐待につながる恐れある方は包括支援センターと共同で成年後見制度活用するよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	都度契約の際に読み上げつつ、不明点を確認し、契約終了後でも疑問点などあれば遠慮なくお申し付けください。と伝え、相互の理解納得をえている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の際に管理者出勤時は必ずご家族様からの意見など伺うようにお声がけしている。 ・誕生日当日に生もの（寿司や刺身）がどうしても食べたいという本人の意見有、ご家族様に伝達し対応して頂くなど		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	①毎月のホーム会議にて業務フローの内容変更など現場の声を確認 ②年度内に4回ほど業務フロー改定 散歩の時間変更・職員の休憩時間帯変更など働きやすい職場づくりに努めている		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社内規定のキャリアパス制度実施 入社時に就業規則配布 離職防止の為に面談実施 ②入社時に15の約束という書類用いてハラスメント防止文言に署名 ③面談や日々のかかわりの中で状況に応じて有給取得やシフト調整など ④紙媒体の介護記録ではなく電子記録活用 情報の全体共有等実施		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	①職員を経験年数別や、技術面で階層分けし担当ユニット定期で配置換え OJT担当固定化を行い、助言する人材の確保に努めています（メンター）		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	毎月第4金曜日にて、相模原市内の介護職員や福祉用具会社等が集う会合に参加しネットワークづくりや勉強会等に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時や入居前アセスメントにて生活歴やどのように生活を送りたいかを聞き取りアセスメントシート作成し共有		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	上記同様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居初日～1週間程度記録を詳細に記入し、必要時外部のサービス利用ができるよう支援している（訪問マッサージなど）		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家庭的な雰囲気を重要視し、「できること」を実際に行っていただくよう支援している。 例：調理・食事の盛り付け・毎朝の掃除		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	認知症ゆえに発生する課題や問題行動に関してご家族様へ報告し、可能な限り面会に来ていただき、家族との絆をより強められるよう支援している		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様以外の面会者（隣人、職場での同僚）等もご家族様に確認したうえで面会や外食同行などしていただいている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	良好な関係性か、そうでないかを記録に記載しながら、レクや散歩のグループ分けなどを行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された方々に関しては、医療的ケアが必要になった方が殆どであり、入院先からご逝去された旨の連絡など受けた場合ご家族様へお悔やみの一報を入れたり、お写真を郵送したりしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴を詳細に聞き取りながら訴えを傾聴するようにつとめ、記録に記載し情報を繋いでいく		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のアセスメントにて共有		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	上記同様		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	施設CMが担当し、意見や思いを発言できる方からは直接、難しい方はご家族様や後見人様と密に連絡を取りながら計画作成を実施		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録にて気づきや工夫店を記入し、職員全体で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	パンの訪問販売や、近隣のスーパーの移動販売支援を依頼。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居系サービスであるため在宅的なサービス導入はしていないが、地域のボランティア団体と交流し認知症マップ作成等行っている		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2箇所往診が入っており、ご本人様ご家族様のご希望に合わせ、なるべく薬の量については減量する・必要に応じての処方を行うなど実施している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回訪問看護にて体調の変化など把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者発生の際は、基本的に往診医療機関へ入院をしていただいております、できるだけ早期に退院できるように調整している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	①入居契約時に重度化・看取り指針を説明し同意を得ている 看取り研修なども職員に対し定期的実施している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変 事故対応時のフローにのっとり職員に対応できるよう指示出し、教育を行っている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練 毎年2回実施 昼と夜の想定をしたうえで、日中は消防署に来ていただいている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様はお客様であるということ意識した言葉遣いや声掛けを徹底するように教育中		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	レクや行事の日など、ご本人様へ選択肢を提供し（何を食べていただけますか等）、自己決定できるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを尊重しつつ、例えば体操などできる事を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	特に女性の方に関しては、乳液や化粧水など持参して頂いている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けができる方へはお願いし一緒に実施、好きな漬物などを持参して頂いている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	独自の記録システム導入しており、摂取カロリーや水分を把握しつつ対応できるようつとめている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケア実施時にうがい薬にうがいなど実施している		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	なるべく日中夜トイレへ誘導の声掛けをし、パットやリハパンに頼らずに排泄できるようつとめている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を多めに摂取して頂くよう声掛けしつつ対応。下剤使用する方もいるが、その方のおなかの動きに合わせて、薬剤調整をしている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	午前中、午後がいい方などその方に合わせて対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	20時に居室へ戻る方もいれば、21時の消灯までゆっくり過ごす方もおり、その方のペースに合わせた対応をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報についてファイリングし現場フロアへ設置して対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お皿洗いが好きな方や掃除が得意な方などそれぞれ役割を身に着けて生活して頂いている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	朝の散歩支援など日常的な外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当施設ではお小遣いは廃止しているが定期的な訪問販売など実施しており、施設の現金にて建て替えで対応。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や暑中見舞い等を作成して頂き、ご家族様と連絡が取れるよう支援している。また、電話があった際はなるべく本人様と電話口変わっていただくように支援している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	パステルカラーなど優しい色合いでフロアを統一しつつ、季節感のある環境整備としてレクにて作成した壁飾りを飾ったりなどして対応		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファーになじみのかたがたと座ったり、リラクセスして過ごして頂くよう支援している		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前にご家族様へ説明し、使い慣れたものを持参するよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	部屋の電気の扱いにて混乱する方がいらっしやったが、壁に説明文掲示して対応などし、自分でできる事の支援を行っている		

2025年度

事業所名 愛の家グループホーム相模原下九沢
作成日： 2026年 4月 26日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	地域と連携した防災体制の構築が期待されます。	毎年2回実施予定の防災訓練や研修に関して、自治会長様等をお誘いする	運営推進会議にてほぼ毎回自治会長様も参加されるため、防災訓練のお誘いを定期的実施	6ヶ月